



北蝦夷圖繪 = Kita Ezo zusetsu. [vol. 1] 1855

Mamiya Rinzō, 1780-1844
[s.l.]: [s.n.], 1855

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

北蝦夷圖說

總說部

部類	
登錄番號	516
現在冊數	4
缺欠冊數	0
函架番號	36
冊數番號	
備考	

J-1310-1

安政乙卯孟夏新鑄

北蝦夷圖說全四冊

一名

銅柱

餘錄

北蝦夷地總說 島名 地勢 產物 交易
南方初島人物 飲食 居家 產業 冠婚喪祭
ラロツコ夷 スメレンクル夷 附錄

北蝦夷圖說序

琴瑟鐘鼓音之美者也。而樂歌之事不作，則不能致其美也。三牲魚腊味之尤者也。而饗食之事不起，則不能致其尤也。人材之於天下亦然矣。雖有非常之人，苟不當有為之時，則不能致其才之尤美也。是世之所以為人材。

不及古也。蓋天之生人今猶古。則其賦材性。
豈有古今之別。唯其無事。是以無用爲貴。
往時當文化之始。國家將有為於蝦夷。

吏人有間宮氏倫宗者。奉

命。單行入北

蝦夷居二年。探其窮北之壤。進至滿州之一

府。接清官吏語。

國家威信而歸。於是北

陬之地。始得詳焉。夫北蝦夷之地。緯度雖纔
在五十度內外。以自古荒漠寥廓。故風氣益
與彼卧兒狼德殆相似。是以先是不唯邦人
不窮其奧。雖西洋夷之貪遠者。未有詳之者
也。然聞官氏奮然獨犯艱險。焦心思。遂得其
要領。其功可謂偉矣。比之夫是班牙之閣龍

採米利幹。葡萄芽之墨牙蘭。一周地。球其剛。

中

上

毅堅忍濟事於萬里之外之村。豈敢讓之哉。

當時聞宮氏所述。有北蝦夷圖說四卷。秉韁

紀行三卷。足以知其功績之一斑。嗚呼。昇平

二百年之後。一旦將有為。則一小吏猶有若

人矣。人材果豈有古今之別哉。由是觀之。世

將大有為也。則人材之出千歲之下。猶千歲之上。斷可知矣。但使之如琴瑟鐘鼓之更奏迭和。以致音之美。丙三牲魚腊之加籩加豆。以致味之尤。乃其在其人而已矣。頃友人大枝甲某。未請序於北蝦東圖說會。余有深感於間。官氏因記其言以為序云。

嘉永七年甲寅十月

江戸

益堂鉉木善教識



北蝦夷圖說卷之一

凡例

一 凡倫宗演話（えんくわ）もととくろれおとへ悉く是と識ひといふがくも
其人素（す）よと多言たゞび且（（し））貞廉（（じんりん））う下鈍（（だいどん））たる其謹意（（きんぎ））と採て盡
ひこやあこもせられハ猶遺漏（（いゆうろう））もととくろの支少（（しこう））うづやくれ
べき歟

一 倫宗の性言尙（（じょう））せざる者ナレバ其自見（（じけん））セざることハ總
て演話（（えんか））もととある故小觸（（こうしょく））如のナシモ又がちうべ
一 凡物蝦夷島（（えし））小ひそきもの悉く其圖說（（ずゑつ））と省（（く））て是と載せた
一 凡地名物名言語の類夷の称呼（（こうしゆう））も所ハ悉く片假名と以て

是と記へ分ち易くつゝむ

一 南方より奥地小至るまで其序次初小人物と申て次は居家産業と記へ後冠婚葬祭よ終る是と以て夷情事態と概知しも小足りる故よ其生平比煩事小至るを奇事あるふらうがばうべ載ることなし

一 凡此島より属するところの主とはラロツコ○スマレンクルのちやくとも皆此篇中より編むものと其俗異なりとも其地同様故より他満州のちやくより至るゝ別より紀行と編て是と載ひ

一 凡此篇中北蝦夷地の字と用ひる事稀かて此島と称へ或

ハ古称と用ひてカラフトと称しもれど其名奉蝦夷地小
混じて文意の錯乱せよもとて思る是所謂私記の如くみて
其事は瞭^{ナガラ}焉^{アリ}もことかくと知らざるの一端ナリト

一凡其物の形狀文辞小畫^{スケッチ}物ハ其大槩と圖^{シテ}是を
出^シいどりども本より寫生^{シテ}其形と得る小論なく其物と
見たる事^ジよあくざきバ悉く是葉公^{ヤシマコ}の龍^リナモア^トと云^ヒト

トトト

卷之二

北蝦夷圖說卷之一

常陸 間宮倫宗 口述

備中 秦 貞廉 編

北蝦夷地古称カラ
フト島

一此島ハ蝦夷島北地ソウヤ地名の北十三里の海と隔て北極地
と出る也。凡四十六度より五十一度乃間小在アリテ其地南
北小長く凡二百餘里東西小短一凡十五六里より狭キ其周迴凡
五百餘里南モ蝦夷島よ對。東ハ大洋。西北モ東韓滿
州。此地方小島多シ。一大島ナウ其人物蝦夷島の者也。
島三分ニ。其不居。其他悉くヲロツコ。○スメレ

ンクルと称しる異俗の夷是より居人

島名

一此島を称すてカラフトといふ其来由と知らば林蔵此島
と巡りてゐる所島夷より質問いといふ島夷又其来由と知
るものなく只蝦夷島の称呼いゆうと答へ奥地の
夷小豆までもカラフトれ称呼あるをとどよ辨知する者
かくされば此島の本名よあくざれと明ナフ

一奥地の夷自称すてシリニアイノといふサシタン夷島と指
みてシリニモシリと称は是と以て考る時シリニ此島の
本名ナラガ如一然ふ林蔵東韓に入と諸夷より接するの間

同船の夷、韓夷より對して相語りると聞よ韓夷ハ自称にてキ
ムシアイノと称し一船夷ハ自ら呼で我モシルンアイノアウ
トイマ夷言カト山と称キテキムト云ウニモ集居の意アイ
ノモ夷の通称ナレモ是と山居の夷と譯レ是と以て顧てシ
ルンアイノの称と按ド且其唇舌^{くわんぜ}聲音の間と熟察レモモ
シリウノアイノ比畧語ちもどヒト夷言島と称キテモシリ
トイリ則島居の夷と称レモモビサソタソニ夷の如キハ島
夷の言語と解レモモナラジ只其聲音の口小發レモヤクモ
ズミと聞てシルンアイノ比居島ナラフと思ひシルンモシリ
ト以て称呼レモナラモ是島名モナラズキ者モアラバ

一林藏東韓の假府小至ア官夷と問答の際シテ言此島小及び
クニハ官夷德楞嘎山の四字と書キテ是ト與<sub>花隆板九邊
國中德楞嘎</sub>山_{ナカル者}載_ヒ是蓋一東韓ハ夷字と製キテ島ニ名付る所少_ヒ一
島名素ドウ然るカノアリアバヤシルバ我邦呼_{カラフ}トトヒ
トヒナリ北蝦夷地ア称_ヒラバ如一島の奉名とち_ヒラバ
一拂郎擦版海上圖中サカリインと題セル島アリ其島大抵カラ
ラフト島の所在ニ置_ヒカ_チ画_ヒキタル其地名と書_ヒルカ
林藏_ヒ圖中小載_ヒル_ヒと_ヒ合セラ蓋一此島と稱_ヒル_ヒア
ル一是小依て林藏島トウ東韓小入る乃間此稱呼あるの
所_ヒ鑿求_{シキ}セヨ東韓夷マシゴー河の源と指_ヒテサカリイ

シラウラヲウラ
江の称と稱し其河源魯西亞の境界中より譲志
て德楞哩名と經其水悉く此島より當突アガツテ海より入る爰と以
て魯西亞の屬卯年エトロフ島
小来ア
乱姿とちだる賊夷皆此島と呼でサカリ
インツ称し是拂郎擦版圖中の名依て起れる所ぢう

同國版別より編むとさうの地理書小此島と題すア卫レウテ
ボウヤと名づく卫レウテバ蠻語と譯しハ物と閘塞アハツ
の意かハボウヤも島也譯し是其島マンゴー河口不在于其
流と閘塞アハツも如きと見てかる名と下せるたゞ一以上二
名とも或そ河名と島名より轉用ひ又ち地形の所在を以く
名づけ已う思ふまゝふ題名もさうのう猶韃夷の製字

下名にいづ如一

一島夷の詞東韃の書^{アマリ}拂郎察^{スル}の版^{スル}及^シト^シト^モカラフトと称^{スル}ナ^ムと見^ジカラフトの語^{アマ}蝦夷鳥の言語^{アマ}あ^クぞれも竊^{ヒカ}よ量^シふ蓋^ハ本邦の人名^{アマ}と^モるをも^シ往時松前家蝦夷鳥と撫^シの初め此島の夷山且夷と共にソウヤ^シ渡來^シ錦玉烟管の種^シ持來^シ獺^シ狐狸^シの皮^シ交易^セと云其時必韃服或^シ異製の衣^シ服^シ來^ア故^シ近代^{アマ}服^シ蝦夷島^シ小異^ナ所謂支配人番人^{ナシ}の呼^シで唐人^{アマ}松前方言人^{ナシ}を^シ云^トア數十年來呼習^セ終^シ小島名^シ成^シそのな^シ以上數說^シ揚^シシ^シ總^シ

島名とちくづきのな／＼去じく、月

命あらず北蝦夷地の字と以て此島小名づけしも其地蝦夷島と隔るも僅小十三里許其住夷も亦大抵蝦夷島小異ふもあらず其奥地異俗夷有と云々と其行支化業少異あるのをみて同ドく是無政の夷壤カセハシぢれを豈蝦夷の名を免るかを得むよしバ蝦夷島の北島タカシマ故小北蝦夷地云々本然の島名とも称つて今幾百年来無名の島ぢりも終小有名の島となれど

地勢部

一此島の地勢南方凡百五六千里の間

東はタライカ西モリヨ
十イニ至るの間と指一

て南方云々
ト是ヲ敵ニ總て蝦夷島の地味ニ異ナリトナリ
トノ事也
ト高山大岳ニ称シテ者ナク又嶮岨艱難の地も稀ナリ
只
小山丘岡の類多くして厭^ハづき^ハ堪ナリ其間平魚曠野あ
リと^ハ之^ハ數津湖沼多くあり地味至て惡^ハ

一
此島至る處草木叢生せざれ所也故乎其地勢鬱^ヒく
て陰地ナリトナリ其土を悉く乾燥^{ヒキ}にて水氣ひくちく
地上總て草木の落葉幾年とれ^ハ落重^ハて枯積^ハリ^ビモ
水氣あらず故^ハ未^ハ化^ハリトナリ故^ハ其地味猶更^ハ潤澤^ハ
有氣ナリモ^ハ悉く塵土ナリ其上と行時ハ趾陷^ハアリ^ハ脚^ハ後^ハ
走^ハモ^ハ至る所多^ハ島夷等時と^ハ山野小宿^ハアリ火^ハ燃^ハ志

て棄置く時ハ其火塵土小燃着遷延^{せきえん}にて山林小焼羅^ら一雨
あつとシテ^{シテ}其火大抵消却^{せきそく}シテ^{シテ}十ニ二十里の間
樹木悉く焼敗^{やけひ}シ^シト^トアリと云

林蔵^{りんざう}辰年^辰の夏初^初て此島^島と
巡^{めぐ}レ^る時ヨツケナイ^至
とハシ^シレ^ル小^こ至^しテ猶炎^{いん}：た^ま其間^ま里程^{りゆう}凡^{はん}十^{じゅう}里^り許^{きよ}の間^ま樹木悉^悉
く^く焼^や敗^ひシ^シ同年^{じねん}冬^冬再^{さい}巡^{めぐ}レ^る十一月廿六日^{廿六日}ト^ンナ^イ帰^かア^至
らんとも^のの道^{みち}數度^{すうど}野宿^{やしゆく}セ^ーことアリ^ム此須既^よ積^た雪^{ゆき}
小^こ一^{いっ}て寒威凌^{さうい}き^うけ^けリ^ヤ大抵^{だい}茂林^{もり}の内^{うち}小^こ入^いリ^テ終夜^{しゆやく}火^ひ
を燃^やシ^シ其^{その}火^ひ塵土^{じんづつ}は燃^やしつ^き積^た雪^{ゆき}ろ中^{なか}と潛^かマ^ス朝^あニ至^る
アリ^テ是^を見^み斗^{たたか}丈餘^{じよ}の外^{ほか}又^{また}迂延^{ゆえん}シ^リ故^{ゆゑ}
ヨ^リ朝^あニ火^ひと消滅^{しょうめつ}シ^リテ^シ跋^ば趾^しシ^リと云

一前條より如^シく塵土^{じんづつ}ナ^シ故^{ゆゑ}小草木根^{くさきのね}と結^{むす}ぶと以^シテ^シ堅實^{けんじやく}
あるわ^ヤあ^ハいざ^シ其^{その}地^じ素^すト^シノ^リ極北^{きわみ}の離島^{りじま}なれバ^時
大風^{おおかぜ}の為^{ため}小^こ一^{いっ}山^{さん}二^に山^{さん}の立木^{たてき}悉く倒伏^{とうふ}シ^リナ^シト^シ云

キトウレホリ圖



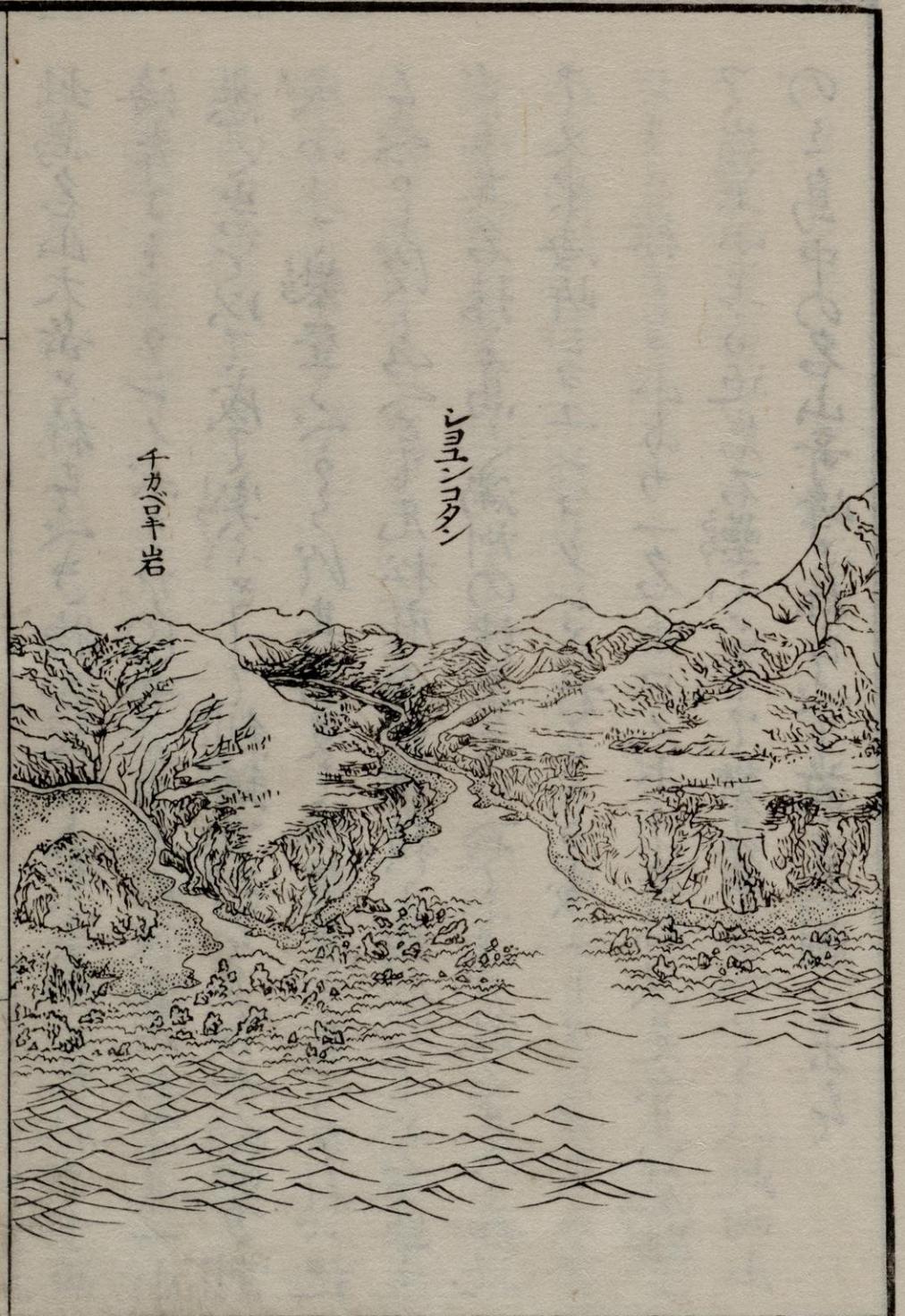
トツレカウシリ圖



トツレカウシリ

シヨンコタン

千カロ平岩



一此島名山大岳と称ひて其物ありて初小云如くかれども西海岸よりトウレノボリナリ者あり其形狀圖のあつゝ一山悉く岩と以て成り突きよつて劍鋒と云ひそつやく四方削成ひて攀登るべくべ其高度を林藏量アリ來しがれハ記もべうべくべ凡松府の白神嶺と類ひベーと云然きども其名殊々高く鶴州の諸夷といひとも皆能く是を知れア又東海岬シヨエンコタンと称ひる處はトツシヨカウツシリと称する山あり一名ホロノボリと称ひ是亦其麓趾より嶺上迄至る迄岩石疊りとて攀登るべくべ此兩山のミ島中の名山奇峰と称ひて故よ其圖と出そ

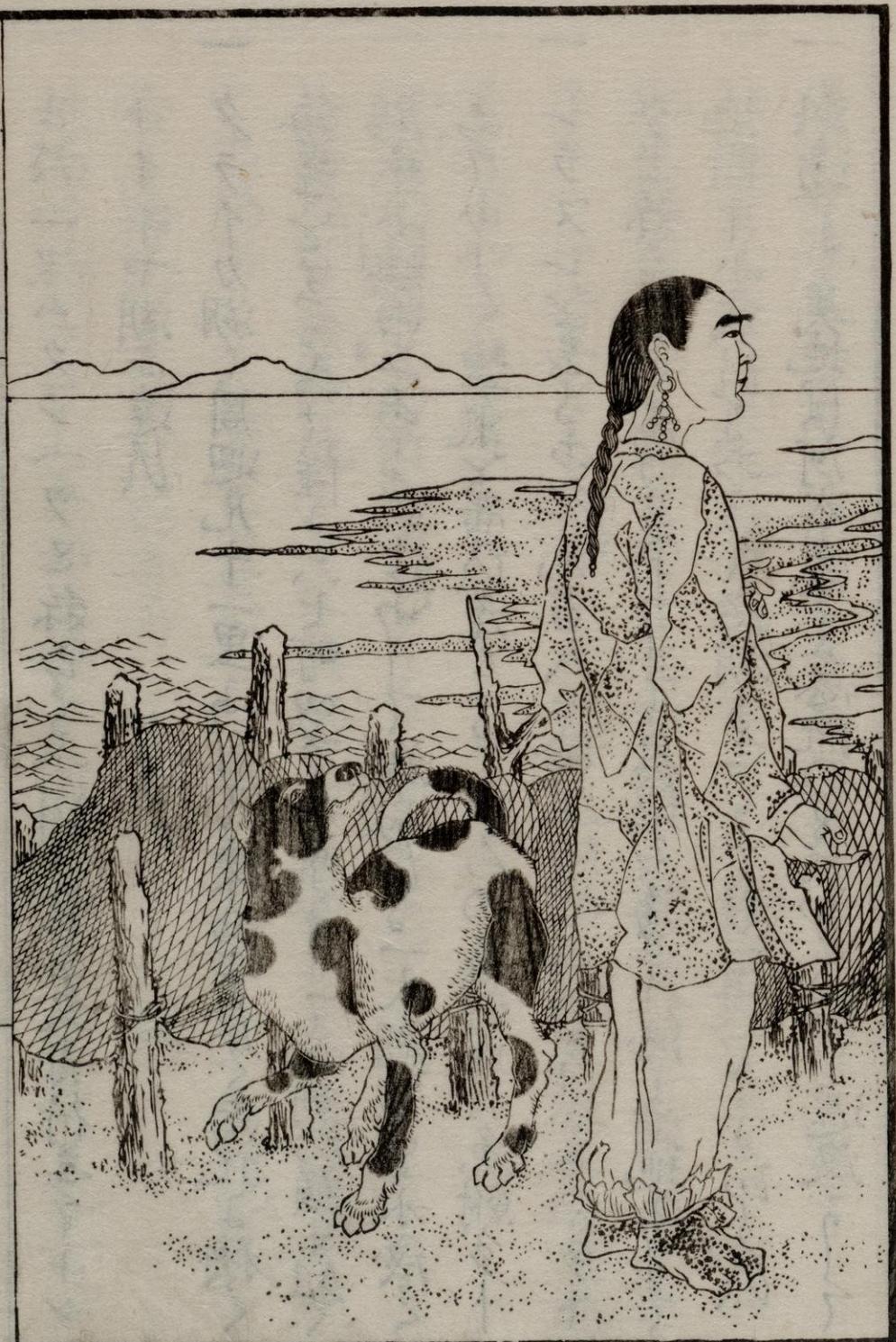
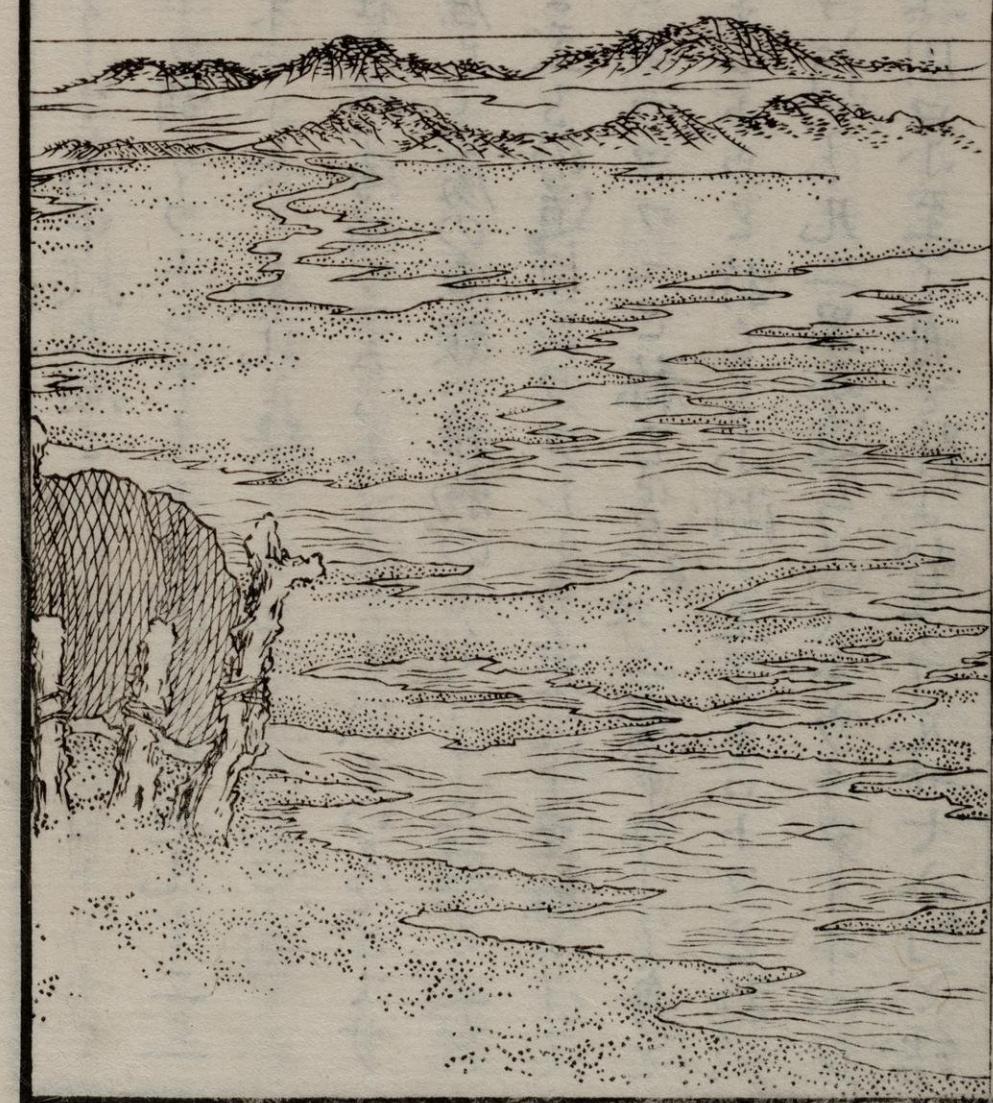
一シラヌシとある也。凡百六十里許西海岸の奥地。ワシライ
イと称する所あり。夫もつ凡一里半許北の方。ビニイトンバ
ウシト称する所よりて奥地の方ハ高山絶てあくロ、陵夷
乃小山のと往く。小散在ハ夫トマノテト地名の邊よ至てハ又
小山モナカ實よ豁然たる曠野か。然れども其地味ハ南方
よ異るモ。なく海岸の沙地。あくゼ。よつハ大抵塵土小
さく水氣なく燥乾シラカシの地多。

一此島中河流ある者。少く。うばとづぐり。大河と称する
もの。南方百五十里の間。小在。祇川の。島中。巨流と称す。然れども其河口僅。小四五十間ある。其

源トモ一と称する北流川是島中の一巨流也。林蔵見タル夷の言ところの頭ドリミ義テ南流數里トカツ力と称シ。所ニ到マシ流ナリ。ナイワフト川ニヤル其流總て濁水みて遻流ち。源より河口小至るの間兩岸總て四五里の平魚みて岩崖断岸の類。故ニ其河潤潛延。兩岸悉く湿地小ち。沼澤の類亦多。其舟渡も。者多くシラヌシ。ライカ以上五句皆地名。トウフワ。トンナイキヤ。ナイワフ。ナイワフ。タライカ以上三句皆地名。シ一と合。六つ。西モライキシカ。ベシトリイ。ナヤシ以上三句皆地名。の三河小限ると云。

一林藏至る所よりて島中一大湖と称らざるはトンシナイ
キヤ湖タライカ湖ナウトンンナイキヤ湖ハ其周廻凡十二三
里許にて東西小長く南北よ狭く其四方丘岡是より圍ム小
嶼ヨ其内よ散在して海岬と去るより遠うシバと曰ふど其
水鹽氣シナ産らる處の魚類ハ雜物のミクアテ品題ヒツギ記
物なく此湖より至るの道はシラヌシトシ東三十里餘りにて
千ヘ千ヤニ。オラツフニと称もる二地名ニ處トシて舟と
陸上小えキ、ホントウと称もる小湖より至アホロトフと称し
る湖中と過ぎ行シ凡二里小近くシトウキタイキペシ
シヤニとつゝ川口小至ア舟と陸よむす凡せ七八町と經ム

奥地
減潮圖



4) バニマムクシ一ツと称し、小川より至る又舟行にてトン
ナイチヤ湖より達ル

タライカ湖を周廻凡十一里みて東西より長く南北より狭く
海岸と去るより僅よ六七町四方平原にて丘岡の類あれ
湖中小嶼兩三あるのみかゝて濁焉たる一大湖たり水淺く
さへ少しく鹽氣と帶へ產するところの魚類比目魚鮒多
シラヌレと去るあり凡百六七拾里ちる西海岸よりヤシト
ウニ称する所あり是よりて奥地より海岸總て河地みて
地圖中小載じるが如く沿湖多きこと數得ざる所也
此邊より奥地は河水悉く急流のれども總て遻流す

濁水たり其外悉く落葉の氣味と存みて水味殊よ悪一
此邊よりまで奥地海面總て平かて激浪なし然りとも其
地東韃の地方を隔るあり其間僅よ十里七八里近き所より至
アリハ二三里ナリ迫所ナリバ中流潮路ありて河水の鳴流
ノゾムヅ如一

一迫處の内何等の所も減潮するあり甚ち其時よりアリハ
海面凡一里餘陸地とナリ其眺望の景實尔本地の見ざる
と考へアリ其色青黃也水草一面小地上小之江蒼茫と
々海水と見ば其形奇カク圖寫もくに難一

一此邊汐時アリ本邦より異なり林藏戊辰の夏六月廿一日十

ツコ崎より至マリ小其晝ハ時分の満潮減^ムテ後其夜五時
分又満潮ヒと云

一ラツカ崎トウタムラヨー地名小至る迫處のうちは冬月より至
アリ悉く氷海とち島夷徒行^{シテ}其上と往返^ス一或ハ犬と
キテ船と挽^シシヒツジモ其冰碎破^シキテ陷没^{シカフ}シム
一此邊ナリテ奥地は終歲地中より雪ありと云其寒地ナリ夫
トモシテ

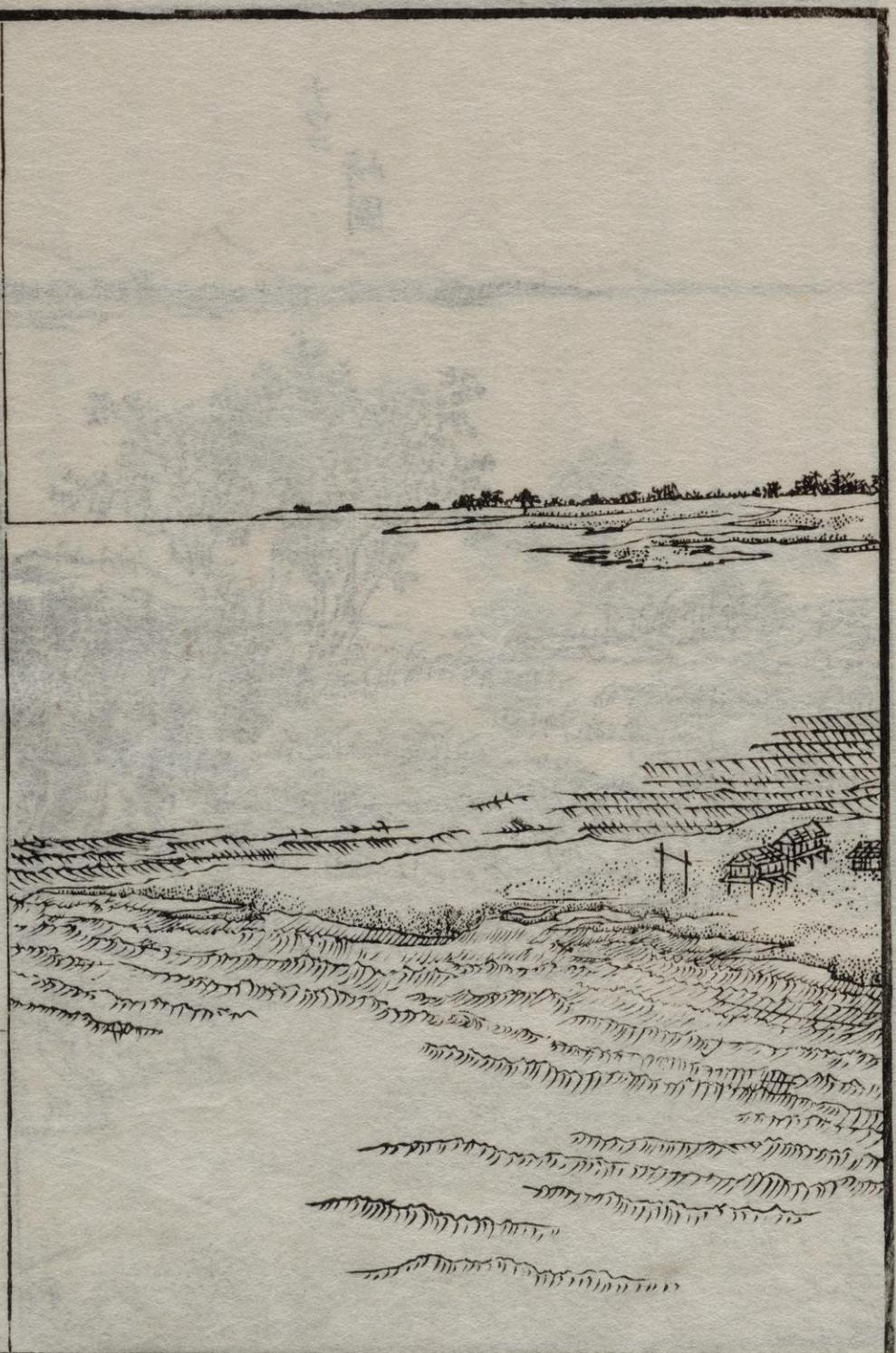
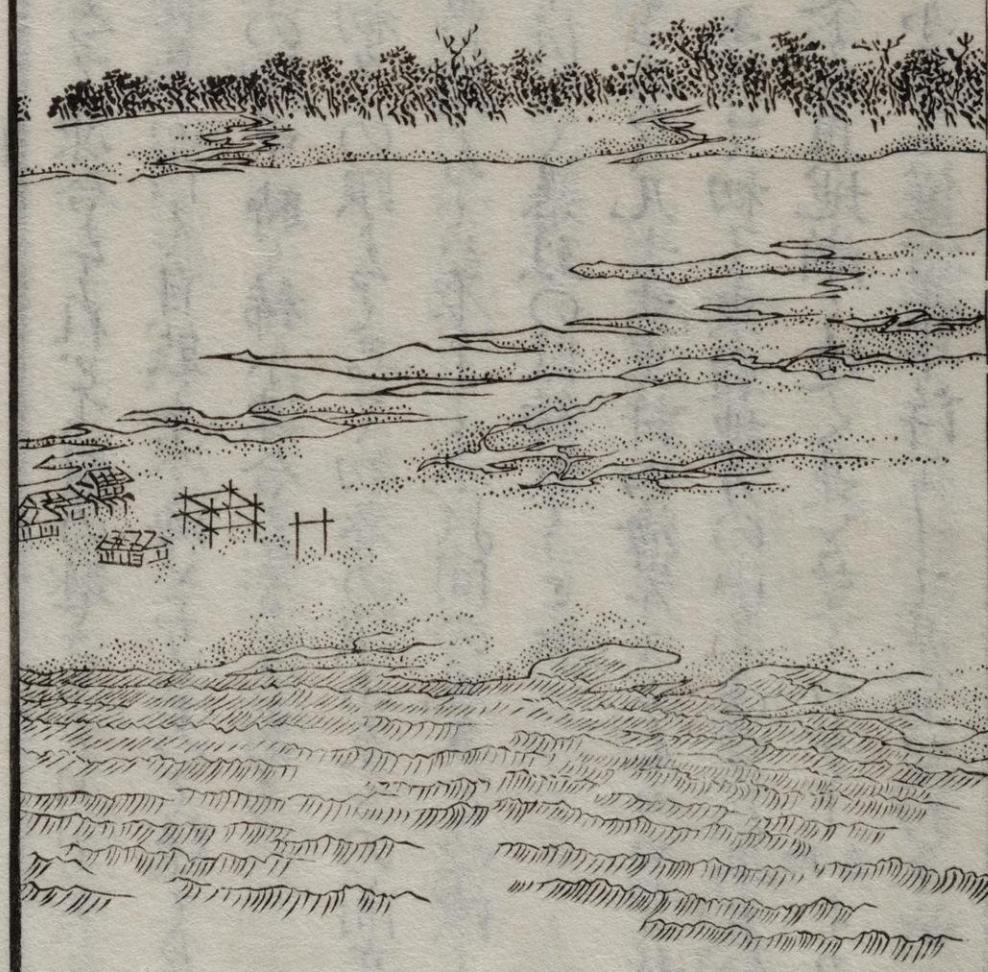
一南方初島の間八十日頃トヨリテ雪海上下降^シ積アリ潮
水總て泥水の如く波不隨^ス海岸不打^シセ凍合^シテ大ちる
巖石の如^ク巖冬の頃不至^テ洋中トヨリキテ大冰流^シ來

又其上小粘ちて凍合ぢれども風の趣きよりて又大洋
よ放流ひ一倅初島の内々自然よ冰海とちるちて絶てやし
只東海岬所の灣中時く稀小凍合ぢることあり

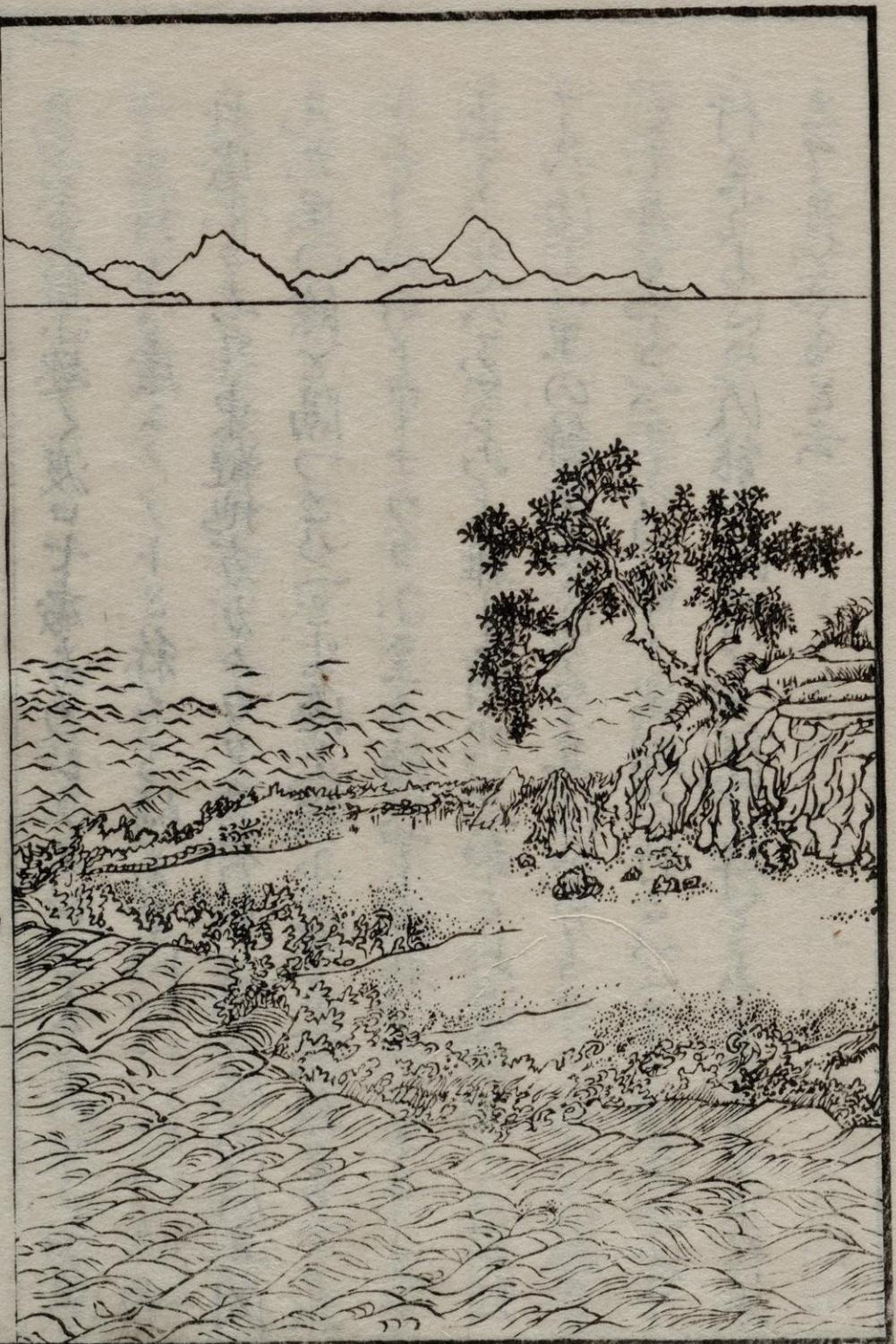
此島西海岸ハ初冬の頃トモチテ初春の湧小至るの間亥子
の風多く仲春ヒ湧ドヤハ辰トモ未ヒ間の風多く吹續くと
リヤモ終歳中ヒツク暴烈の風稀ナリと云

レラヌレヒテ玄るナア凡七十里許西海岸ヨウレヨロヤ称ヒ
る所アア此所ヤ一て初て東韓地方の山を遠望ヒ其直徑凡
廿五六里许是トモ奥地漸く近く是ヒ望ヒサゲー地名トモホ
ユベ一地名の間小至て僅一里半许ナーテ是ヒ望ヒ云

ノテト崎
圖



古口
崎圖



一島夷東韓シラヌシと云ふ處ありシラヌシと去るより凡百七十里許ある處よノテトと称する崎ありスメレンクル夷アリテツカヒシ此處よりまで東韓地方カムカタと称する所よ渡海に其間凡九里の餘と隔つとも海上穩ヤハラギ小舟で大抵難更ありとや此所トモナツコ小至る海路も潮時を熟察して舟と出立しハるゝ事と難い前より如く此邊減潮の時を到て海上一里の餘陸地トモヤ其陸地からざる所亦淺瀬多くて舟とやうべり故ニ満潮の時と以ても海岸小添て行ふもありば能く潮時を考認て峠カクと去る所半里許小さく舟とやると云

一ノテトの次ある者とナツコとリラツコとスメレンクル夷

其間相称

其間相

去るより凡五里許此處よりて東韃カムカタ小至るの海
路僅よ四里許と隔つ其間大抵穩なりとも出崎あれ
モ浪うけあく殊よ減閑の候上文のとく其時と
得ざれば舟と出ひそぞりび魚類も無數かて糧と
得る所之ち事々不便の地あれど島夷大抵ノテトと以
て渡海の所となし然きとす風順あく又も冬月日至て海
上怒濤多き時ハ其海路の近きと便として此崎より渡海レ
能リ

一十ツコの次なる者とウケーと称し其相去るより凡六里許

通船の事ハノテトドリナツコニ至ルが如く能潮時と考
されバ至るアシ能リハ此處ドリテ東韓ヲツタカバ一ハ
と称シテ處小渡也其海路稍少一里餘少て海上穩ナリと
以テ子迫處あれモ中流潮路あり急河のびとく風候より依
て逆浪舟と没シ事アリと云

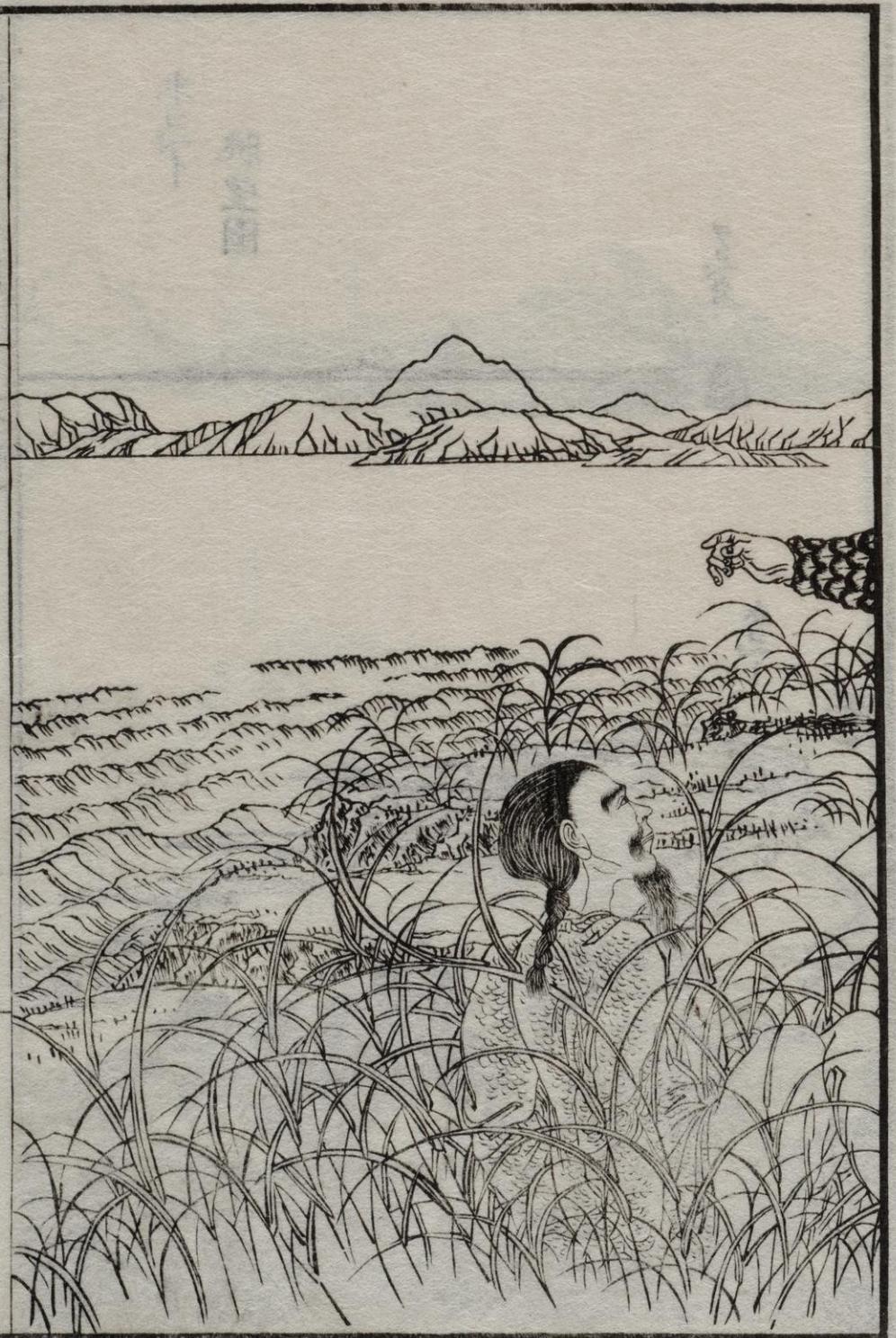
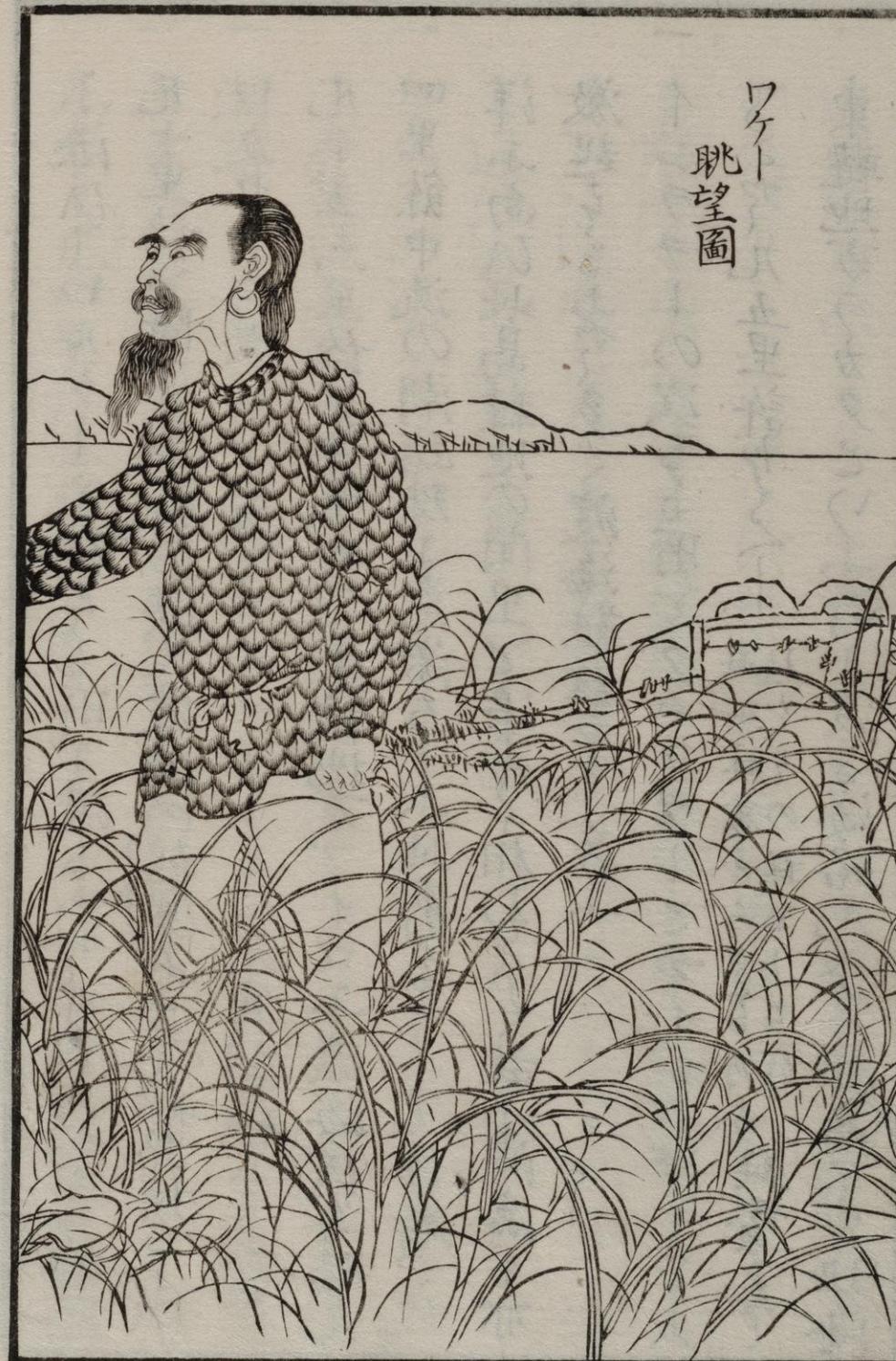
一 カケーの次ナリトボコベーと称シ此處ドリモアテ東韓ヤシ
フニヤリ所小渡海也其海路亦僅モ一里半許と隔て中流
潮路もアリカケーの如ク

一 ボコベーの次ナリ者ビロカカセイと称シボコベーと云
ラモア凡四里許此所ドリモアテ東韓の地方より傍ひたる小岐

小添してカルケーと称する所を渡る所を有つて、海路
凡十里許と隔て且潮時の候又波濤の起^き_き激あつて船路穩^{くわん}_{くわん}らず
一カセイの次なる處をイレラヲ^トリ其間相去^{する}も
凡十五六里許是より北東韓地方ブイロ小渡海以海路凡
四里餘中流の潮路殊^よ急激ちふ此所より北へ漸^く北
洋小向い此島韓地の間里と追々相去^{する}故小波濤も亦
激起ちむるあく多く渡海艱難^{かうなん}なりとす

一イシラヲ^トリの次なる所をタムラヲ^トリと云イシラヲ^トリと去
る所を九五里許ナム^トリ此所林蔵ふらざる所あり此處より
東韓地方ラカタ^トリ所を渡る海路凡八里餘ある北海

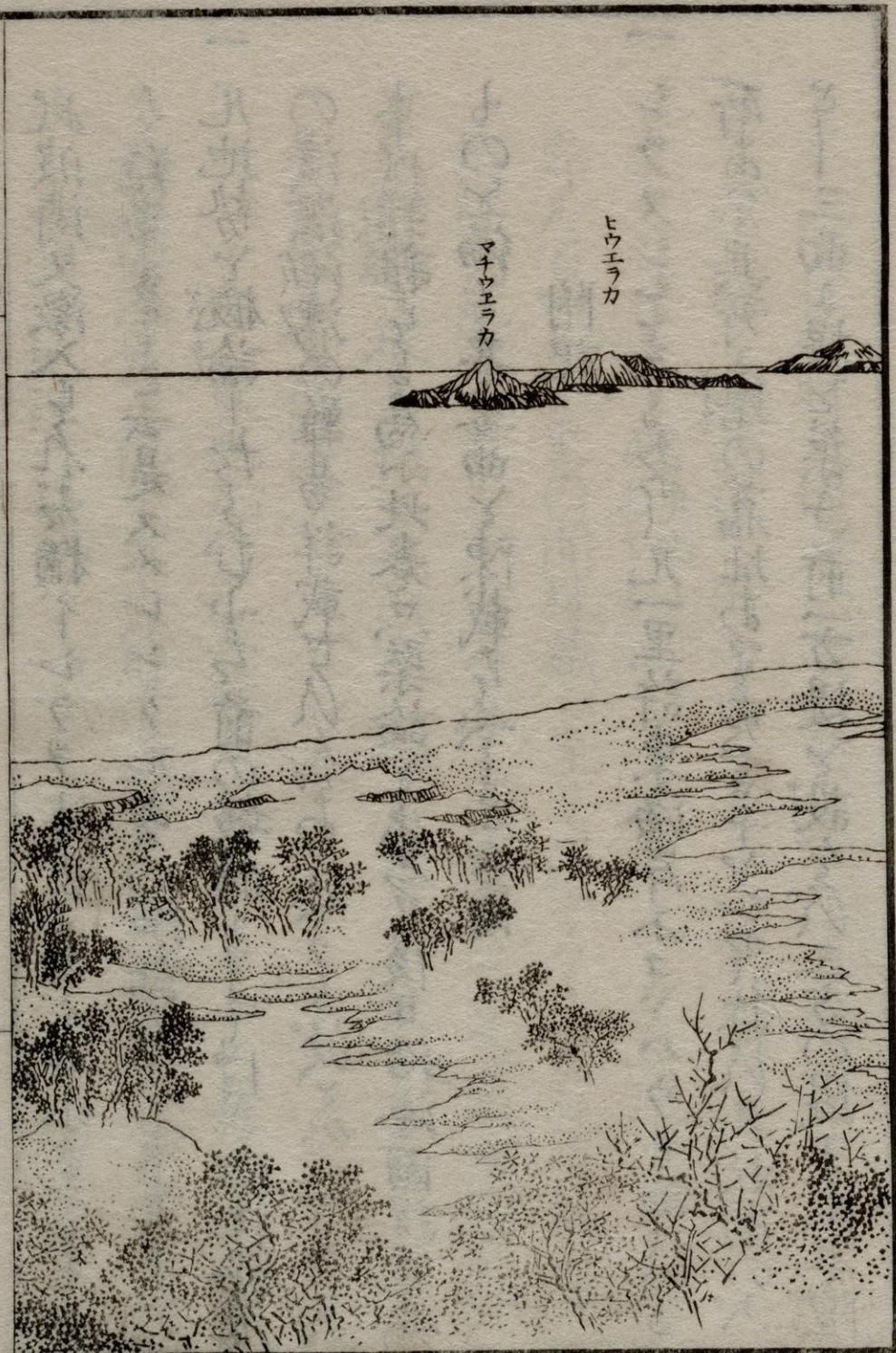
ヲノ
眺望圖



ホコイ
眺望圖







此波濤又激入シテ猶イシラヲ一トヨブイロ小至るづ如
く難事多ニ云是スメレンクル夷の演話シテ處アマ
一凡地勢と概論ナムシテ前の數條ナヘキ他海底
の淺深治濤の難易詳載セバアズハシカヤモ其
事ハ錯雜シテ為小此卷口槩論と出立テ後日沿海圖說より
ものを編て其委曲と陳載シテと云爾

附記

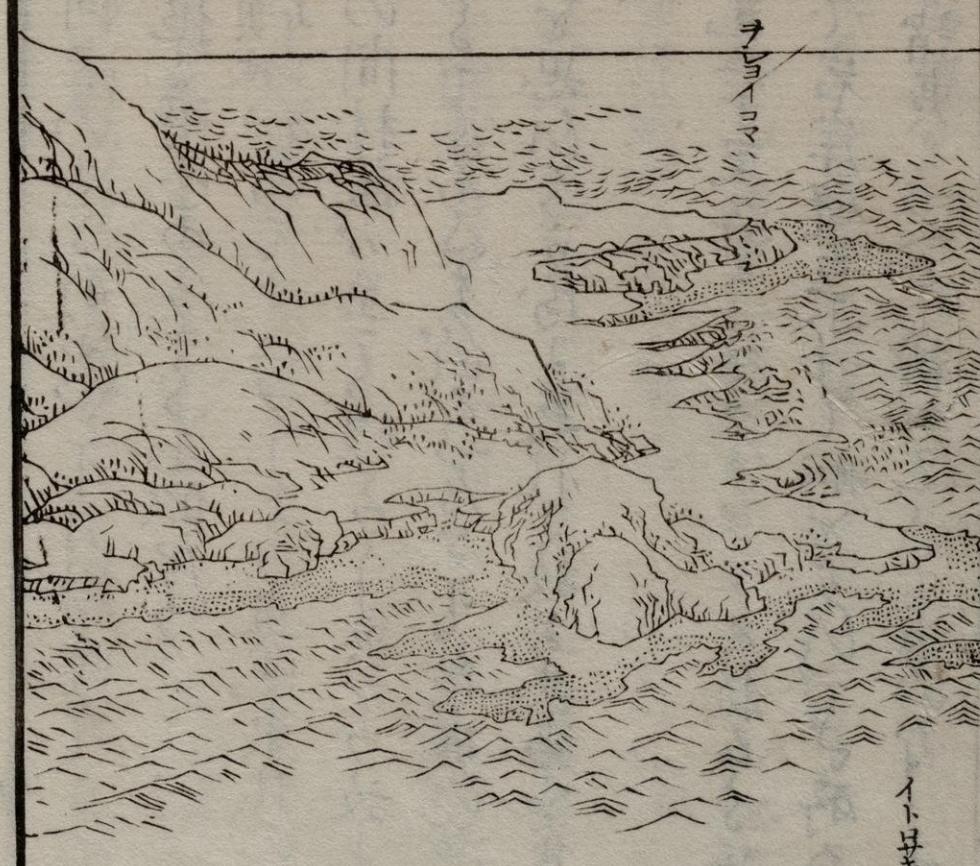
シラヌシを玄るナア凡一里許東海岸ニコドハウト称シテ
所アマ其所ニ塔の舊址アマ夷言千ヤシヤ称シ其状圖のが
シニ一面よ堤と築キ前方堤と設ケバ三方の堤下悉く隍

と穿つ何れの時又何者の造る前か年月塔主とも云ひ
べうべ其製島夷の化る所小あらざる似たり

東をシレトコ岬奥地よりある者 西を十二ヨードラ奥地東北の海
岸凡百四五十里の間林藏アシタマ が至ると浮ハヤシ がアリ 然アリ が故に其
地理夷態詳盡アラカルモ であるがと云ふと衆夷の演話
之所大抵其概と思ひもつて是れで故に其事と集め
て此所に附記し

一シレトコより奥地凡二十里許にてクキヨーと称する所あ
リ此間の海岸は總て岩岸壁立して船とよりべき所なり
故に此間の地理は諸夷と云ふ辨知するものなし夫よ

古塔圖



ア奥地ヨルン。メルコア一。ヌイ。ヒロヲ一。ラタヲ一。
。一カ千ヨムヲ一。シヤ卫。ヒレント一など称する所數
十里の間悉くヲロツコ。スメレンクル夷の部落にて其
居夷は許多なる。と槩知る。其地理ハ大抵南方ト
シナイキヤト。シレトコニ至る海岸の北と入湾シテ
沙地ナリ。此邊亦沼湖の多キナリ。西海岸ノテトの奥地の如
ト云。此邊の居夷も亦往昔滿州に入貢セ。尔近代後て入
貢し。もや。ナリ。語ア。

一 西海岸イレラヲ一ト。モ凡二十里許壯地。ニカウトと稱い
る所。あつ是の島極北の地。みて西海岸の地境。此所。ヨハ

其東韓地と相隔るの間ハ大抵ノテトドキ南方イトイ
れ間アテ韓地と望む。此邊從てマンコ一河口と
うくる處あれハ潮水淡薄アテ其增減リ北海トウ進退レ
ル。アヤシム。されば鱈鮭オホバタケ雜魚の類。多く群集一地夷と養
ふ。小足コトブキ。故ニ此邊住夷多く凡三十四五落アリ。皆スメ
レンクル。ヨロツコ夷の居域キヨカミ。ちつ其内タムラヲ一又タム
ラヲ。カウトの三處。夷家殊多大抵每落數十屋有
リ。而滿州の命らる所ハラタ。カーシンタなど称らる。酋長
のもの居。時く滿州より貢。冬月海面凍合の候。至
シハ山且夷も來居。アテ交貿トアヒトツヒト云。

一カウトより東海岸凡二十里許ふちてヒレントーに至る其間一大岬ありて地形大抵タライカよりクキヨーより海岸のざく岩崖石磯多く且東大洋とす所なれど怒濤いつも高激にて夷舟の往返絶てが一得がる所ナリ只仲春より初夏の間此海より碎氷の流れ出ると待て地夷舟と出一冰上出遊の水豹と獵一得る者多一只此時のみ海上時、平坦なところアトリヒト云

一此島の住夷は大抵海岸の木小居をもつて山居の者ナリ只奥地までトモーと称する川ある島中一二巨流ナリ其両岸土著の夷落凡廿四五所ありて其族ハ悉くヲロツコのス

メレンクル夷小一て産業も無異ちもあらかく山獵もて得
るやうの諸獸皮ハ悉く山且夷小交易一トモ一川ニ漁也
テ鱈鮭雜魚と得て食糧となひ此トモ一川ハ源シ一川源の
ほとりノツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツカツ
ヤ称モリ所の湖中ふ入て東海ニ流る其水逕流か一急逆
の所サクシバ通船敗没の愁ナク且河邊山獵も多く河中の
產魚も亦住夷と養ふよ足ナリ故ニ東西海岸の住夷結婚通
稅もる者少くつゞけ時々其處小往返もるがおつ東モタ
ライカ シー邊ドリ川を上モヨ舟行一積雪凍合の革ホ及
了モ船と裝一犬ヨ曳セ河漢冰上ニ渡マテ其所ヨエモヨ西

はイトイムカツチヨンといへ西處より往返して僅ふ路痕
と存ルバ通行難更ナリトシヒト云

以上四條林藏夷話ふきく所なれど齟齬の事も多々成
下といひも唯後考の便れ為よ爰よもひ

產物部

一草の類異種の物を見ヒロ、雜草の多くて花草の類更少
慶覩ヒズカナ

一薦の類絕て產する物ア

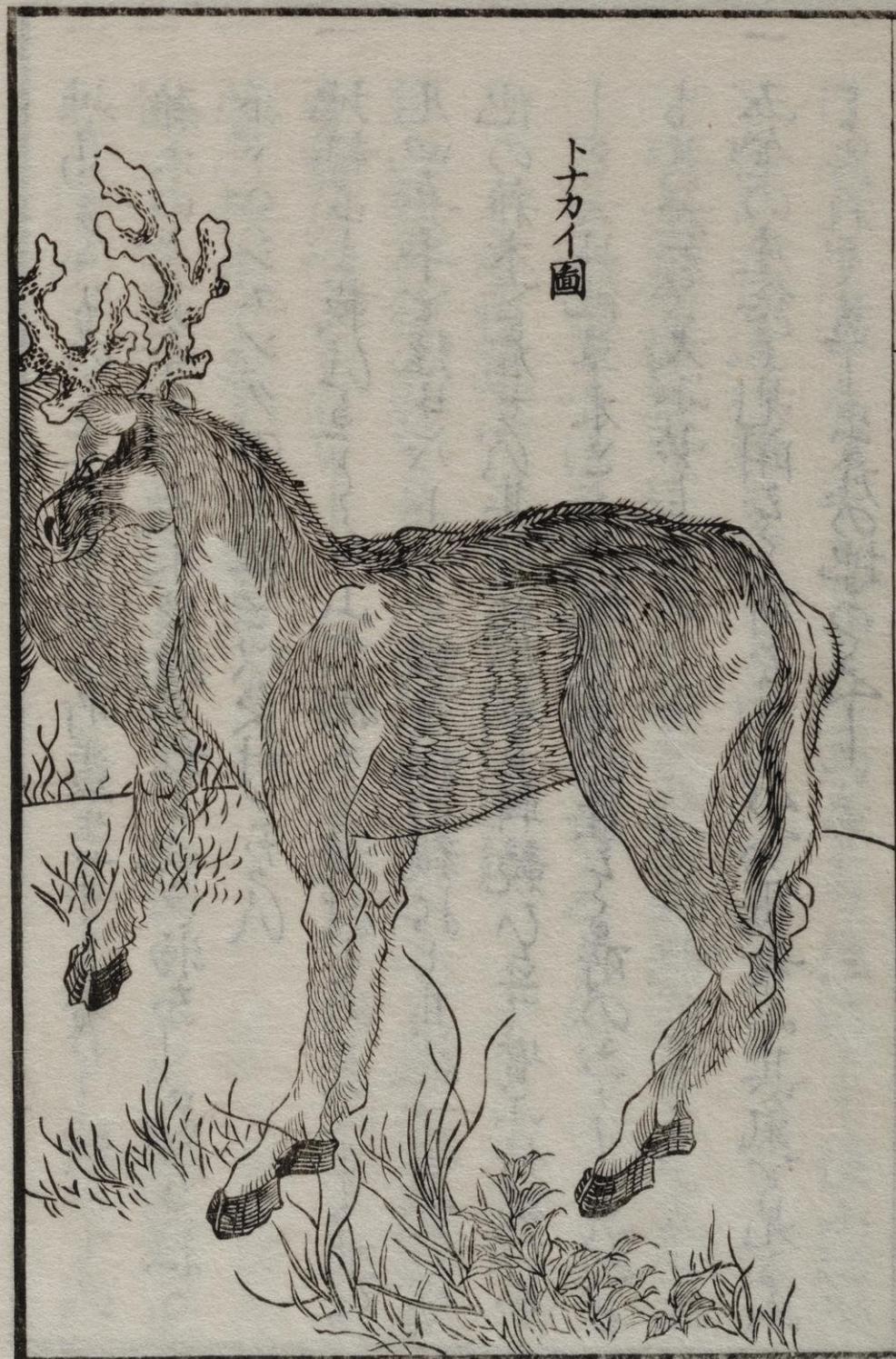
一竹ハ小竹といひも產する所なく只シラヌシの邊箸を生
むる所み

一此島多^シ木の木本ナリ^シある所叢生セラモ慶ナリ然^シテ只
雜木の木多く^シて大木良材と称シ^クす物アリ只卫^シ松。
トド。シユンクの三種と以良材とナリ

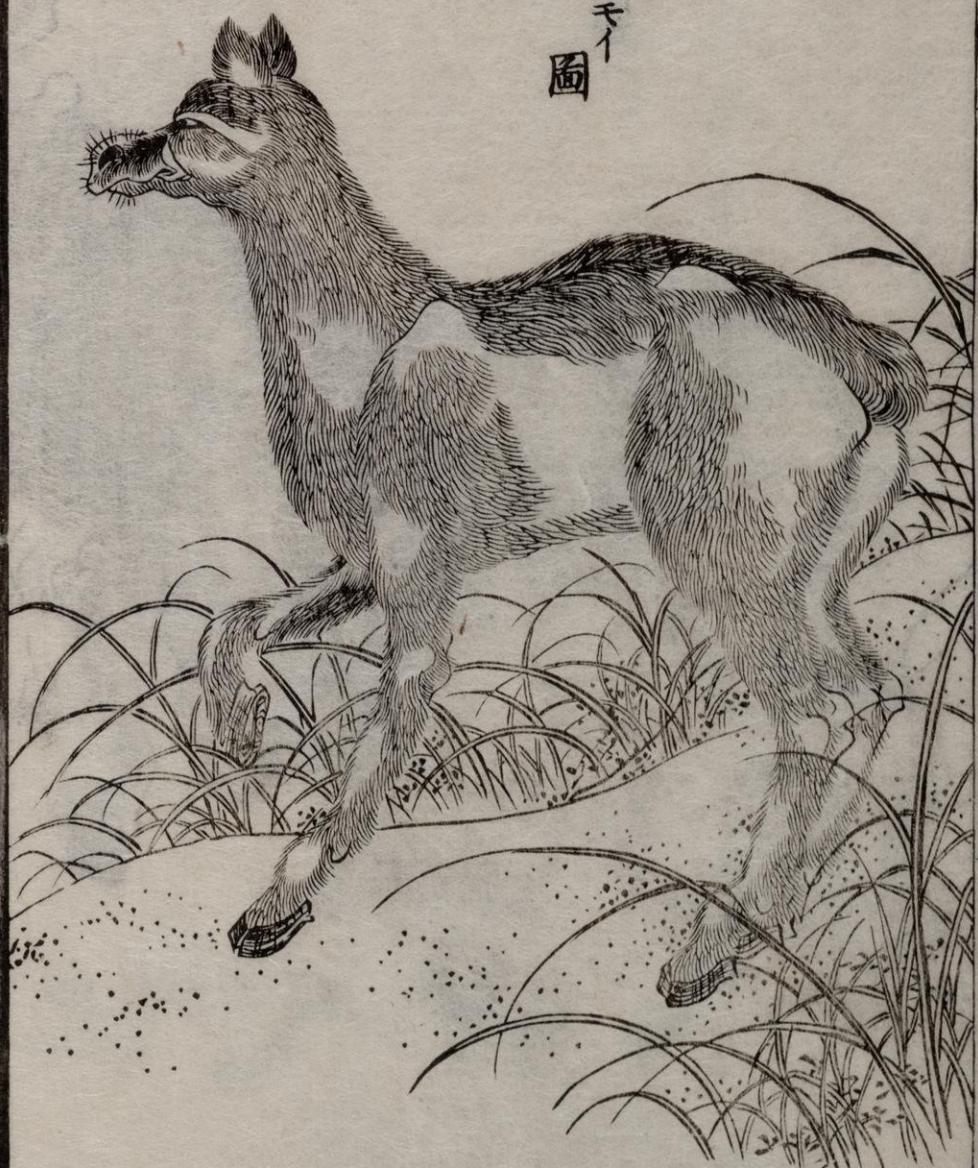
一地勢中より載^シる山火樹木と焼^{ハシ}ル事^ニ有^リ其後
凡四五年と経^{ハシ}バトド。蝦夷松の類れ^ミ其跡^ノ發生^シテ
他の雜木と產セバ其繁茂の状直^チ韓競^シヒ立^ス實小竹林の如
一と云此他草木ともに蝦夷島の產^シる所のガ^シー^シと之^ニ
も其種類大^シ少^シと云

一五金の產^シタ^シ見聞^シる所ナリ^シども希^シ其氣^シを見る
とあれぞ蓋^シ一出生^シの地あ^リゲ

トナカイ圖



リキンカモイ
圖



一此島より硫黃と產する。故に林藏經る所總て燒山溫泉
あれ。

一石品すゝ異なる者を見し。ロアテケーよりイドイ共地より名 もふ
るの海岸多く石膏を產す。

一鳥比類無。蝦夷島より異る者を見し。奥地異信夷の部落小入
アハ夏月鷹多々見。子を産し。又其羽墜失ちて飛ハシマリ ひきものあり。沼湖の内より游し。夷等大々て是と咬
獲エキ や。又棹と以て是と打或は石と投げて是と得ると云
一獸、蝦夷島ナに所の物二種あり。其一をトナカイと稱し
其全形體の如く。亦圖の如く。其面目ハ馬ふ似たり。其

角枝多く突く大アヒノモノも柔軟少て物を傷さざる毛皮と蒙る其尾と牛のぢくより細一此島南方の地を山小居ちて夷等是を獵一皮肉と取る奥地ヲロツコ夷ニ至てハ是を養うて業ニ成り其歟力ト勇ト懦弱少て能く人少馴昵シ

夜譚隨錄云似麋而大者曰堪達爾汗趁其即麋也前昂後低多力毛粗而長為裘暖角扁而厚為決良人以其皮可裘而角可決也驕馬臺灣而殲之獲利厚

其一をリキニカモイと称し其形北鹿のぢくよりて牙に少大きさ犬の如く黒色ナガウ夷等是を獵一皮と取て肉と食ふ

一 豊南方の産する所ハ其色黃少して下品ナリテ奥地より多シ
隨て毛色黒一足と上等の滿州夷是を悦シ
池北偶談曰本朝極貴玄狐次貂次猞猁狲玄狐惟王公以上始
得服

一 東もタライカ西もノテトの邊より奥地ニ海獸殊小多一春
分鮋漁の候タライカの海上獸也波上ふ出没する也鳥鷗
の羣集也

一 海魚の類總て蝦夷島の產する物の也只西海岸よりアル
コイ。ハ千ユツ千エツフと称する小魚也其状皆鱸魚の
狀とくわめて少なる者大々七八十者とアルコイと称

ノテ三四寸たるものと云、千ユツキエツブと名づく東都の
俚言セイ六と称シる者のゾー暮春の湊海峯より群集シる
六殊小夥一

一山澗の石ある處やく何レの所也鮮多其形狀の怪しきと
以テ夷等恐怖ノテ是を喰セバ

一シラヌシトウクレユンコタンニふるの間暮春より仲夏の
間海上鯨魚多々鮫漁終て後其所在と云バ

一タライカの湖中鮒多く産シ其大さ尺餘のもの多々其形狀
日本地の物と小異ナリと云マス此處の海中海扇多々
一トウフツの湾ウシホトの湾多く牡蠣と産シ

一 奥地のノテトナウカケーの邊小比目魚タメー其大きさ僅二三寸と限る種類の異なるもの幾品あるかと辨知トス
地夷網と以て是と獲るが只是のことと得て他魚あることを
一千ヤカラシイと称する所ナウ奥地異種の鮭魚と産し其肉色
殊尔して志一常の鮭と異ナフ

一 虫の類異形の者と見し大抵蝦夷島にある處の如一蚊虻の
類甚多キナリト蝦夷島より越ナリと云

北蝦夷圖說卷之終

